

# 親と子の自然観察

関口 伸一

公益財団法人トトロのふるさと基金 理事

海城中学高等学校 理科教諭

## 第四回 冬鳥の観察

寒さも厳しくなり、昆虫やカエル、ヘビなどの外温性の動物が見られなくなって寂しさを感じることもある。その一方で、温かい羽毛に包まれ代謝も活発な内温性の動物である鳥たちは変わらずに活動をしている。木枯らしが吹き、雑木林の木々が葉を落とす。すると、雑木林には光が差し込み夏とは一変して明るくなる。こうした冬の雑木林では樹冠の葉で隠れて観察することが難しかった鳥たちを容易に観察することができる。双眼鏡を持って、鳥を探してみると色とりどりの鳥たちを観察することができる。サラリーマンのようなネクタイが特徴的なシジュウカラ、漫画家のベレー帽をかぶったようなコガラ、尾が長くひしゃくの柄のような尾を持つエナガ、林縁では、獲物を狙うモズなどに出くわす。これらの鳥は1年を通じて雑木林にいるが、冬に平野の雑木林にやって来る鳥もいる。例えば、日本最小の鳥のキクイタダキ、青い体に黄色が映えるルリビタキ、お腹のオレンジが美しいジョウビタキ、喉もとがピンクで名前も特徴的なウソ。色鮮やかなものは主に雄で、雌にアピールするため鮮やかであるといわれている。冬は雑木林でこうしたきれいな鳥たちを見つけ出すのが面白い。

耳を澄ませて鳴き声を聞いてみるのも面白いが、

最近は「ヒューヨヒューヨヒューヨピチュピチュ」と大音量の鳴き声が良く聞こえる。この鳴き声、きれいな鳴き声と思う人もいれば、うるさい鳴き声という人もいる。声の主はガビチョウという中国原産の外来の鳥である。元々は愛玩鳥として日本に入ったものが逃げ出して、アズマネザサなどの下草が繁茂した管理が行き届かない林を好み、増加しているとのこと。雑木林の植生の遷移が進んでいるのを感じる。

湖に行くと、シベリアなどから渡ってきたさまざまなカモの仲間を見ることができる。一見、同じに見えるが顔などを見てみると違いが分かり面白い。数が多く、顔が緑のマガモ、オールバックで眼光が鋭いキンクロハジロ、体が比較的大きくて茶色い顔にすらっとした尾が特徴のオナガガモ、ナポレオンハットがお似合いのヨシガモ、オシドリ夫婦で有名なオシドリ（実際は浮気率が高いとの研究もあるが）などが見られる。カムリカイツブリなどの大型の鳥も見られることもある。潜るのを確認して、どこから出てくるかなど見ているとなかなか楽しい。

こうした鳥たちは狭山湖やその周辺の雑木林で観察することができる。きれいに澄み渡った青空の下、双眼鏡を片手に鳥並みの暖かい服を着込んで鳥たちを観察してみるのはどうだろうか。

トトロのふるさと基金

トトロのふるさと基金は、市民の寄付金により土地を取得するナショナルトラスト活動を行い、狭山丘陵の自然を保全している。現在は27ヶ所（2014年11月時点）のトラスト地がある。トラスト地を巡る散策会の企画や里山管理などの市民ボランティアの受け入れも行っている。

トトロのふるさと基金ホームページ URL : <http://www.totoro.or.jp/>